

平成 23 年度
登別市中学生海外派遣事業研修
報 告 書



目 次

第 19 回登別市中学生海外派遣に参加して 団長:石 垣 則 昭・・・ 1 page

紀行文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 page

8 月 15 日 (月) 水 谷 太 亮 西陵中学校

8 月 16 日 (火) 米 谷 侑 樹 登別中学校

8 月 17 日 (水) 竹 原 香 澄 鷺別中学校

8 月 18 日 (木) 山 下 梨里花 北海道登別明日中等教育学校

8 月 19 日 (金) 林 可 歩 幌別中学校

8 月 20 日 (土) ~ 21 日 (日) 藤 島 葵 緑陽中学校

研修テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10page

林 可 歩 デンマークの音楽

水 谷 太 亮 デンマークの環境意識

竹 原 香 澄 デンマークの料理

米 谷 侑 樹 デンマークの食文化

藤 島 葵 デンマークの消費税

山 下 梨里花 デンマークの農業

感想文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24page

林 可 歩 幌別中学校

水 谷 太 亮 西陵中学校

竹 原 香 澄 鷺別中学校

米 谷 侑 樹 登別中学校

藤 島 葵 緑陽中学校

山 下 梨里花 北海道登別明日中等教育学校

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33page

引率者 松 本 政 樹 幌別中学校教諭

団長 石 垣 則 昭 緑陽中学校長

資料編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35page

登別市中学生海外派遣事業の概要

事業概要

研修会等日程表

派遣生徒・引率者・ホストファミリー名簿

派遣日程表

友好都市協定書

第 19 回登別市中学生海外派遣に参加して

団長 登別市立緑陽中学校 石 垣 則 昭

この度、第 19 回登別市中学生海外派遣団の一員として参加させて頂きましたことにお礼申し上げます。また出発に際し温かい激励の言葉をお掛け頂きました小笠原春一登別市長様、高田正紀副市長様、武田博教育長様には心より深く感謝申し上げます。さらに事前研修より具体的なご指導を頂きました登別市企画グループ国際交流担当の東ひろみ企画主幹、鈴木利枝参与兼専門員はじめ関係者の皆様に改めてお礼申し上げます。派遣団一行は皆様のご指導のお陰で当初の目的を達成し、全員大きく体調を崩すこともなく多くのことを学び、笑顔で登別に帰ることができました。

本年度は過去の派遣実績を踏まえ、特に研修の充実を図ることを派遣の第一としました。そのため各派遣生徒が調べたいテーマを設定し、そのテーマに従って事前研修を行い、現地であるデンマーク、ファボー・ミッドフュン市にて、ホストファミリーや交流校であるリングフリー校、ノエア校の協力を得ながら研修題を解明するようにしました。ファボー・ミッドフュン市長にそのお話をしたところ大変喜んでいただき、互いの文化を調べ知ることが真の交流に繋がるとの考え方を示していただき、「市としても分からないことなどがあれば、全面的に協力をするのでいつでも申し出て欲しい。」とお話を頂きました。



さらに二つめの視点は、交流の活性化です。事前学習では、日常会話程度の語学研修を行いました。多くを学ぶためには積極的にふれあい、デンマークに住む皆さんの温かさを体験的に実感することが大切と考えました。そのためできるだけホストファミリーの部屋に閉じこもることなく、日本人同士でかたまることなく、何時でも現地の方々と一緒に行動するよう生徒の意識化を図りました。

三つ目の視点は派遣生徒が帰着後、各学校の全校生徒に適切に文化の違いや派遣の様子を伝えることを重視したく考えております。ここに登別市が国際交流都市として積極的に交流事業に取り組んでいる意義があると理解しています。登別市では次代の担い手を育てるため、国内でも先んじて派遣事業を行っています。今後とも本事業が大きな足跡を残し、国際理解都市として益々発展する登別市の礎となることを心より願っております。

紀 行 文

8月15日 西陵中学校 水谷太亮

午前3時、僕は目を覚ましました。これからいよいよデンマークに行くのだと思うと、とてもワクワクして、不思議と眠気を感じませんでした。集合場所の市役所には、5時に到着し天気はくもりです。バスに乗りこみ、家族に別れを告げ、千歳空港へと出発しました。バスの中では、女子と松本先生が、マジカルバナナで盛り上がっていました。千歳空港に到着し、搭乗手続きを済ませた後、記念写真を撮り、鈴木さんと東さんに見送られ、いよいよ僕達を乗せた飛行機は、北海道を飛び立ちました。成田空港に到着すると、コペンハーゲン行きの飛行機の出発が1時間半遅れになっていて、出発ロビーで時間をつぶすこととなりました。僕と米谷君は、動く歩道に乗って、成田空港を探検しました。途中でマクドナルドを発見し、昼食用に購入して、食べました。

出国手続きを終え、いよいよデンマーク行きの飛行機に僕達は乗り込みました。機内では、映画を観たり、ゲームをして過ごしました。機内食は、まあまあだったけど、肉を頼んだら、ほとんどレアで、しょうがないので無理やり食べました。ロシアの上空を通過した辺りで窓ガラスを見たら、凍っていたのにはびっくりしました。11時間半のフライトでしたが、半分は寝ていたの、それほど疲れは感じませんでした。



飛行機から降り、まずは入国審査。いろいろ聞かれると思って、ドキドキしていたら、何も質問されず、笑顔で「こんにちは」と言われて、ちょっとびっくり。みんなも何も聞かれなかったのですが、なぜか石垣校長先生は、たくさん質問されていました。コペンハーゲン空港駅からコペンハーゲン中央駅までの列車の中から見たデンマークは、とても緑が多く、北海道の景色に似ていました。

コペンハーゲン中央駅に到着すると、突然高校生の集団に話しかけられ、一緒に写真を撮りました。外に出ると、曇っていて少し肌寒かったです。ホテルに荷物を置き、30分休憩してから、チボリ公園にみんなで出掛けました。時刻は8時近いのに日没が遅いため、まだ空は明るかったです。チボリ公園は、遊園地と日本のお祭りがミックスした感じの所で、大人も子供もたくさんいて、みんな楽しそうに遊んでいました。途中で雨が降ってきたので、乗り物には誰も乗らず、お店を見てまわりました。お腹が空いたので、みんなでピザを頼んで、食べたのですが、3枚頼んだ内の1枚の野菜のピザがちょっと焦げていて、あまりおいしくなかったです。ホテルに帰り、シャワーを浴びて、僕が歯を磨いて戻ってきたら、同室の男子二人は、もう眠っていました。僕は、明日はどんな事が待っているのかと、ドキドキしながら、眠りにつき、あっという間に一日が終わりました。



8月16日 登別中学校 米谷侑樹

やはり緊張していたのか、デンマークのホテルでは予定の6時より1時間以上はやく起きてしまいました。外を見ると見慣れない街並みが広がっています。しかし、上を見ると見慣れた青空が広がっていて、それを見て少しだけ安心できました。

朝食は日本では見られない食べ物がたくさんあり、何を食べるかとても楽しい時間でした。朝食後、道子・ペダスンさんが迎えに来てくれて、派遣団以外の人と日本語で話せたのでとても安心感がありました。



そのあと、道子・ペダスンさんの案内で在デンマーク大使館へ行きました。そこで自分のテーマにそった貴重な話がきけ、話す相手が日本人のせい、ここがデンマークじゃないような気がしました。

ホテルに戻るとき、道子・ペダスンさんと、リズィ・サンダーさんの提案で、列車で帰る予定を変更し、船でホテルに戻る事になりました。船の上から見える



景色は、ここが外国であることを改めて実感させられる美しい景色でした。

その後、コペンハーゲンの街中を散策。歩き行く人々の多くは外国人のため、自分がとても小さく思えました。

アンデルセン博物館の近くの街並みはとてもメルヘンで、まるでおとぎ話のような世界でした。

雨が降ってきたので、クヌード教会に連れて行ってくださいました。教会に入るとき時は少し緊張しました。もっと暗い場所だと思っていたからです。しかし、教会内にはほかの見物人がいたので、くらいイメージがなくなっていました。道子・ペダスンさんと別れたあと、いよいよ列車に乗ってホストファミリーとの出会いとなりました。ホストファミリーと会うのは、少しの不安と楽しみな気持ちが混同したような気持ちでした。

ホストファミリーのいる駅に降りるとよりいっそう不安が強まってきました。しかし、いざホストファミリーと話してみるととても優しく話してくれて、気づかぬうちに不安がなくなっていました。

8月17日 鷺別中学校 竹原香澄

ホストファミリーの家で向かえた朝。ホストのアマリエがとてもやさしく、ぐっすりと寝ることができました。私は7時頃にアマリエに起こしてもらい、7時45分頃に朝食を食べました。デニッシュ（黒くて固いパン）にバターを塗ったものと、フルーツのミックスジュースというシンプルなメニューでしたが、とてもおいしかったです。

8時30分に家を出ました。アマリエはいつも自転車で登校しているそうで、私も自転車を借りたのですが、サドルが高くて乗るのが大変でした。途中で藤島君のホストファミリーであるカミラの家に寄って、一緒に登校しました。家から学校まで15分ほどでした。

9時からホールで始業式がありました。ホールは教室とちがう校舎にあるので一度外へ出ないといけません。いつも移動が大変だと思いました。始業式では先生からの言葉があったのですが、まったく何を言っているのかわかりませんでした。歌も5曲歌いました。そのうちの1曲は日本の歌である「サクラ」だったので歌うことができました。他の4曲は手拍子だけで参加しました。

1時間目は図形の勉強でした。グループに分かれて、3つの図形を使って正方形をつくるという授業でした。とても簡単で、日本でもこんな授業ならいいのになぁと思いました。



休み時間には、アマリエや友達为学校を案内してくれました。たくさん教室がありました。校舎を移動している途中で雨が降って来て、びしょ濡れになってしまいました。

2時間目は新しくできたという少し離れた場所にある校舎を、先生に案内してもらいました。そこには理科室や体育館、食堂、寮もありました。とても大きくてきれいでした。私の通っている学校は古いのでうらやましく思いました。

昼食はオープンサンドとバナナでした。オープンサンドは少しかたくてあごが疲れました。しかしとってもおいしかったです。あと、水谷君にニンジンももらいました。生なのに甘くて驚きました。

1時頃からイーエスコウ城に行きました。最初はお城の周りを見て回りました。アスレチックや巨大な迷路、昔の車やバイクが展示している博物館もあり

ました。そこには、日本のブランドである YAMAHA や SUZUKI のバイクもあり驚きました。

3時頃に城内へ入りました。歴代の城主が使っていた部屋などいくつも部屋があって、動物の毛皮やはく製がたくさん飾ってある部屋には驚きました。また、「妖精の家」というミニチュアが置いてある部屋もあり、とても小さいのに本物の家みたいでかわいかったです。



5時頃に城を出て、家に帰ってきたのは5時半頃です。帰ってきてすぐに、アマリエと2人で夕飯づくりをしました。ピザをつくったのですが、生地をのばすのに苦戦しました。綺麗な円形にはなりませんでしたが、「手作りらしくてイイ」とお母さんに言われました。夕食は6時15分に家族4人で食べました。自分でつくったピザはとってもおいしかったです。私は1切れでおなかいっぱいになったけど、お父さんが4切れ食べていました。

6時50分に家を出て山下さんのホストファミリーのエバ宅に行きました。エバの家には既にみんなが集まっていてキャンプファイヤーをしていました。マシュマロやパンを焼いたりしました。正直パンはあまり好きではありませんでした。庭にトランポリンがあったのですが、水谷君が初トランポリンだったようで、テンションが上がっていました。私は昨日カミラの家で飛んでいたのに飛びませんでした。私はエバが飼っている猫のお世話をしましたが、とてもかわいい猫でした。

9時10分頃、カミラと藤島君と一緒にエバの家を出ました。

帰る途中、きれいな月が出ていて、アマリエと「きれいだね」と言いながら帰りました。

ゆっくり帰ったので、家に着いたのは9時半を過ぎていました。それから明日の準備などをして、10時20分に寝ました。

8月18日 北海道登別明日中等教育学校 山下 梨里花

ホストファミリーと過ごして、3日目の朝を迎えました。まだ、眠たかったのですが7時に起きました。始めにノーアエア校を訪問し、生徒たちが朝会で「桜」を日本語で歌っていたので驚きました。私たちは「青春群舞」を披露しました。デンマークで初の踊り披露だったからか、とても緊張しました。校内はカラフルでお店のようでした。

リングフリー校での授業は「日本の文化」。折り紙、習字、そろばんをそれぞれ楽しみ生徒の名前に漢字をつけてあげると、とても嬉しそうにしている私も嬉しくなりました。

午後 図書館、老人ホームを訪問。図書館はキッズスペースもあり、幅広い年齢の人が利用しやすいという印象。老人ホームでは「Mester Jacob」「青春群舞」を披露しましたが、練習の成果はうまく出し切れなかったように思いました。

夕方からさよならパーティー。私がこの日1番楽しみにしていた時間です。家を出発する前、イーヴァと一緒に庭の花を摘み、それをパーティーに持って行きました。

学校に早めに着き、準備を手伝いました。そうしているうちに、人が集まりそれぞれの家庭から料理を持ち寄って夕食となりました、そして、歌と踊りを披露するときが来ました。



「Mester Jacob」「青春群舞」「じょいふる」を披露して「鬼踊り」は全員で踊り、いつのまにか緊張はなくなり、楽しいという気持ちになりました。

後で、イーヴァとホストファミリーにとっても良かったよと言ってもらえました。

夜、いつもより早い時間に寝ました。とても充実した1日でした。

8月19日 幌別中学校 林 可 歩

今日は朝から雨模様。せっかく楽しみにしていたレゴランドの日なのにちょっとショックでした。でも、朝起きるとホームステイのママから昨日の老人ホームで踊った「青春群舞」の様子が載っている新聞を見せてもらい、すっかりうれしい気分になりました。

朝食にご飯（トウモロコシ・グリーンピース・パプリカ入りの混ぜご飯）が出てきました。やはり日本の米とは違って味の方は...でしたが、とった分はきちんと食べました。

8時5分、ルイス家を出発。リングフリー校で鬼踊りをみんなで踊って、山下さんとピアノとクラリネットのアンサンブルで「きらきら星」を演奏しました。けっこう盛り上がる事が出来ました。

次はいよいよバスに乗ってレゴランドへ！

1時間50分かけて、となりのコトランド半島まで行くので、長い長い橋を渡ったのですが、広い海と豊かな緑が美しくやはり日本とは違う感じがしました。ついに到着。入り口に一歩足を踏み入ると、もうそこはレゴの世界。何もかもがレゴで出来ていて、どこへ行っても何を見ても感動のしっぱなしでした。



はじめに、レゴランド全体を見渡せるタワーに乗りました。かわいらしいおもちゃの世界のような様々な施設を一望しながら、あれに乗ってみようとか、あそこに入ってみようとか、みんなで相談していたらわくわくしてきました。

ジェットコースターでは、水浸しになってしまいましたが、あまりにも楽しかったので2回も乗ってしまいました。また、別のジェットコースターは、かなり激しいものだったにもかかわらず、これも2回乗ってしまいました。もちろんレゴブロックがモチーフになっているかわいらしいジェットコースターでした。他にもたくさん面白い乗り物があました。

少し後悔していることは、あまりにも遊びすぎてお土産を買う時間がなくなってしまったことです。今度行った時には、じっくりとお土産をながめてみたいと思いました。

レゴランドから帰ってきたら、ルイスがデンマークの地図を広げて、思い出話をしながら今までいったところや明日の空港までの道などに印をつけてくれ

ました。ルイスはとても寂しそうな顔をしていました。もうお別れが近づいているからか、泣きそうな顔をしていました。私もそんなルイスを見ていると胸が苦しくなっていました。

その日の夕食は、ホームステイのママが典型的なデンマーク料理を用意してくれました。おいもとハンバーグ、温野菜サラダなど栄養満点のものでした。夕食後、メンバーとホストファミリーが集まって、屋外でさよならパーティーをしました。日が暮れるのは9時頃なのでずっと遊び続けて超 enjoy しました。

あっという間のデンマークでの楽しい日々、お世話になった人たちの顔や見た景色、交わした言葉…。なかなか寝付けなかったのはいうまでもありません。Vi ses! Mange Tak!

8月20日・21日 緑陽中学校 藤 島 葵

朝、目が覚めると、自分にはいつもの風景となった部屋が目飛び込んできた。棚に置かれた人形とレゴ、机の上に置かれたノートパソコン、そして朝日が差し込む大きな窓。しばらくの間、その場を静かに座っていた。もう、お別れの日か。

その後、ホストファミリーの車で駅まで送ってもらっている間、建物の隙間から覗く教会が見え、自分を見送っているかのように感じた。



駅に着くと、派遣団員と、そのホストファミリーの方々が集まっていた。空は清々しいほど青かった。時間はゆっくりと流れるけれど、別れは確実に近づいている。それがとても嫌だった。最後の記念写真をたくさん撮り合う。そして、電車はすぐ来る。重いスーツケースを持ち上げながら、乗り込んだ。

発車の瞬間、ああ、もう戻るチャンスはほとんど無い。ホストファミリーに何か失礼なことはしていないか、もっと一緒に過ごせなかったのか。無情にも、窓越しに見えるリングエの美しい風景が静かに流れてゆく。そして、今までの思い出が次々とよみがえってくる。

リングエフリースクール、イーエス

コウ城、レゴランド。時間が経つのは早すぎる。

空港。デンマークについた時と同じ近代的なデザイン。ガラス張りの壁などからは、あの時と同じ空が見えた。もうそろそろ完全にここから去ってしまうのか。飛行機に乗ると、深い青の海が望める。海上の風車が手を振るように見えた。

そして、泥のように眠った。目が覚めると久しぶりの日本の朝だった。もう惜しいことは無かった。とてもいい経験ができた。思い出ができた。更に強い絆ができた。

このような経験をさせていただき、登別市やその関係者の方々本当にありがとうございました。



研修テーマ

デンマークの音楽を調べます。 幌別中学校 林 可 歩

世界一幸福な国といわれているデンマークは、全人口が550万人と少ないながら、ヨーロッパの中でも音楽がとても盛んな国です。

デンマークの首都コペンハーゲンには、「デンマーク王立管弦楽団」(Det Kongelige Kapel)というオーケストラがあります。このオーケストラは、1448年に設立され、世界最古のオーケストラと言われています。デンマーク王立歌劇場(Den Kongelige Operas)でのオペラ公演も行います。



【デンマーク王立管弦楽団のポスター】

また、「デンマーク音楽アカデミー」という音楽大学がコペンハーゲンにあります。これは、1867年に作曲家ニルス・ゲーゼによって設立された国内最古で最大の音楽教育機関で、現在400人の生徒が在籍し、音楽を学んでいます。女王マルグレーテ2世が保護者を務めています。



【女王マルグレーテ2世】

デンマークには国歌が2つあります。国自体を讃える時にデンマーク人が歌うのが"Der er et yndigt land" (麗しき国)。1844年から国歌として歌われています。サッカーの試合の前などにはこちらの国歌が歌われます。

一方、"Kong Christian" (王クリスチャンはそびえ立つマストの傍らに立った)という国歌は、デンマーク王室を讃える歌という色合いが強いです。1830年頃につくられたとされています。

私たちの生活に身近なところでいえば、皆さんもよく知っている「いとまきの歌」は、デンマークの童謡だそうです。

私は、デンマークに行ったらホストファミリーの皆さんをはじめ、様々な人たちに今流行りの曲を聴かせてもらったり、吹奏楽がどこまで知られているか聞いたりしながら、興味のある音楽についても話をし、デンマークの人の音楽に対する考えを学びたいと思います。

デンマークの音楽を調べて 幌別中学校 林 可 歩

私のホストファミリーの家には、アンティークな感じのピアノ（ルイスのおばあちゃんが子どもの頃に使っていたもの）と電子ピアノが置いてあって、音楽を聴くことも大好きだといっていました。日本と同じく音楽が身近であることが感じられました。

リングフリー校では、毎朝全校生徒が集まって合唱をしていた。私たちが訪問していることもあり、「さくら」を日本語とデンマーク語で歌ってくれました。さらに、校歌やデンマークの歌も聴かせてくれました。さくらは、私たちも一緒に歌うことができ、みんなが笑顔になり、教室でも歌を口ずさんでいる生徒がたくさんいて、やはり音楽に国境の壁はないのだなと思いました。

ノーアエア校では、音楽室を見せていただきましたがドラム、ギター、ベース、キーボードなどがそろっていて、これを授業で使っていると思うとすごくうらやましい気持ちになりました。それだけ音楽が盛んであり身近なものであるということだと思います。

残念ながら、デンマーク王立管弦楽団や、デンマーク王立歌劇場、デンマーク音楽アカデミーといった事前に調べた施設等を見学することはできませんでしたが、ルイスのひいおばあちゃんが使っていた音楽の教科書(?)を見るなどして、何となくヨーロッパの音楽の歴史的な雰囲気を楽しむことができました。



また私が音楽について調べていることを知ったルイスが、リングの楽器屋さんにも連れて行ってくれました。そこには日本と同じようにたくさんの楽器が並んでいて、吹奏楽で使う楽器やギター、ドラム、アコーディオンなどを見ることができました。「YAMAHA」の文字を見た時は何となく安心して、日本の企業もすごいじゃないかと思いました。

デンマークには、毎日の生活の一コマとして音楽を楽しむ人達が沢山います。右の写真はチボリ公園の野外コンサートの様子ですが、雨の中にもかかわらず立ち見客もたくさんいて、「ブラヴォー！」という声が公園内に響き、通る人がみんな心から演奏を楽しんでいました。日本とは明らかに違うリアクションでした。



このチボリ公園のコンサートホールは、デンマーク女王も大好きで、クリスマスやニューイヤーのコンサートは特に人気があるようで是非一度聴いてみたいと思いました。

デンマーク人の環境意識を調べます。 西陵中学校 水谷太亮

現在「環境先進国」と言われているデンマークは、様々な環境関連政策を打ち出していますが、まず一番に挙げるとすれば、風力発電です。国内の全電気消費量の約26%は、風力が占めており世界の割合を誇っています。風力発電所の所有者の87%が、個人または共同所有であり、また技術や制度の普及と発展がなされ、風力発電の市場も形成しています。なぜこのように住民が風力発電に理解を示し、またそれらを自分たちで所有するという現状が生まれたのでしょうか。

まず1つ目の要因は、1970年代の原子力論争からデンマークが得たものにあります。当時デンマークでは、電力のほとんどを石油火力発電で賄っており、その原油は、100%アラブからの輸入に頼っていました。そうした状況で起こった73年のオイルショックに国民、政府は、エネルギー構造のぜい弱さを痛感しました。石油依存の状態を解決するために原発推進準備を進めた政府に対し、環境NGOは、「原子力を使用しない。」「小規模分散型エネルギー技術導入拡大」などの現在のデンマークにつながるプランを提案し、これを国民が広く支持しました。こうしたNGOの活動によって国民は原子力が導入される前の段階で知識やデータを得ることができ、原子力論争を経て、1985年デンマークは、原子力計画の永久放棄に至りました。



2つ目の要因としては、環境NGOの存在と果たす役割にあると思います。NGOは地域住民が実際に風車を立てて経営していく中で、非常に中身のある実質的なサポートをしています。例えば、市民や中小企業の支援、電力会社などへの売買価格の交渉、また電線を電力会社に接続する際の条件の取り決めなどについてもNGOが担っており、また、一般市民でも扱えるような風力発電技術の普及にも大きな役割を果たしています。このようにNGOの存在と果たしている役割は、デンマークの風力発電を市民が中心になって発展、普及していくためには必要不可欠なものだったのです。これらの事から現在のデンマークの環境政策が政府の押しつけから生まれたものではなく、国民が選択した政策であり、その結果人々は、協力的で、主体的なのだということがわかりました。そしてデンマークの人々の高い環境意識と主体的な活動は、環境NGOの活動に支えられているのです。



現在日本では、東北大震災後の原発問題に大きな不安を抱えており、デンマークの環境対策の中に多くの事を学ぶことができると思います。僕は、今回のデンマーク派遣において、この世界的に最も高いと思われるデンマークの環境意識が、人々の中にどう根付いているのか、日本でも取り入れることができる環境対策はないのかなどを視点にして、訪れる街や学校、ホームステイ先の家庭で直接学んでみたいと思います。

僕は、デンマーク人の環境意識について調べてきました。デンマークの日本大使館の中でお話を聞いた時、車にかけている税金は、200%と言う話を聞いてとてもびっくりし、こんなに高かったら車を買う人はいるのか？という疑問を持ちました。でも意外と街の中を走っている車は多かったです。でもこのような政策が、車の全体量を減らし、地球温暖化の改善に役に立っているのだろーと思いました。風車の発電力は、デンマークの全発電力の20%と言うこともお聞きしました。

ホストファミリーにうまく説明することはできませんでしたが、風車を見たいということと、自然を見たいということだけはわかってもらえたらしく、説明した次の日の午後に風車を見に連れて行ってくれました。風車は、写真に入りきれないほど大きく、とても立派でした。『この風車は、だれの風車ですか』と聞くと「デンマークの電力会社の風車だ」と教えてくれました。その風車が右の写真です。その日の夜には、風車の事についてインターネットで調べて印刷してくれました。そのプリントからは、デンマークには、数えきれないほどの風車があり陸だけではなく海にも立っていることがわかりました。



ホームステイ先のマグナスの家は、奥が見えないほどの大きな畑を持っていて、その中にある川や森、池など、とても豊かな自然が沢山ありました。

町の中では、自転車に乗っているたくさんの人、駐輪場に止まっているたくさんの方の自転車に驚きました。車が高いことも自転車に乗っている理由なのかもしれないけれど、デンマークの人々は、よく我慢して、自転車に乗ってられるなと思いました。マグナスの通っているリングフリー校の生徒も家がすごく離れている人以外は、みんな自転車で通っていて、偉いと思いました。

デンマークに滞在中、色々な場面で、デンマーク人の環境意識の高さを実際に見たり、聞いたり、感じる事ができました。東北大震災後の原発問題を抱えている日本では、そうは簡単にはいかないとは思いますが、日本もデンマークの環境に対する姿勢を学んでいくべきではないかと思いました。国の政策も重要ですが、国民一人一人の意識を変えていく事も大切なことだと思いました。



デンマークの伝統料理を調べます。 鷺別中学校 竹原香澄

デンマークは8世紀に独立した歴史のある国で、伝統的な料理がたくさんあります。

有名なデンマーク料理といえばスモーブローと答える人が多いそうです。スモーとはバター、ブローはパンを意味するデンマーク語で、直訳するとバターパンという意味です。薄くスライスした黒パンに様々な具を乗せ、ナイフとフォークで食べます。家庭ではパーティの定番料理で、専門レストランもあります。まさに、デンマークの伝統料理といえるでしょう。具はサーモン、



ニシンの酢漬け、小エビ、ローストビーフ、ハム、生肉、ベーコン、チーズ、ゆで卵、スクランブルエッグ、玉ねぎ、トマト、ピクルス、キュウリ、ベーコン、マッシュルームなど色々です。



他にも、豚の背肉を丸ごとカリカリに焼いたフレスケスタイという料理があります。日本ではあまり見られない豚の背中の部分の肉が、デンマークには背脂ごとかたまりでスーパーでは売られているそうです。肉の切れ込みにハーブやローリエ、塩こしょうをたっぷり擦り込んでからオーブンで焼きます。この背脂の部分が、カリカリになるまでしっかりと焼く

のがフレスケスタイのポイントです。もともとは、クリスマスの伝統料理なのですが、普段のパーティにもよく出されるそうです。日本ではちゃんとしたオーブンが備え付けられている家庭は少ないと思いますが、デンマークでオーブンがない家庭はあまりありません。このような伝統料理がデンマークにあります。

私は料理の作り方や、食べ方をホームステイ先で教えてもらいながらデンマークの食文化について理解を深めたいと思います。また、その料理を日本でも作ってみんなにも食べてもらい、デンマークについて知ってもらいたいです。

デンマークの料理を調べて 鷲別中学校 竹原香澄

私の研修テーマは「デンマークの伝統料理について」でした。そこで、ホストファミリーのお母さんに料理について聞いてみたり、図書館の本を見たりして調べました。たくさんの発見、驚きがあったのですが、伝統料理というより食文化に近くなってしまいました。

私がまず発見したことは、冷蔵庫やオーブンが大きいことです。冷蔵庫を測ってみたのですが、高さは2 mをはるかに超えていましたし、横も1 m 30 cmほどありました。中には野菜やハム、バター、牛乳などが入っていました。また、大きなオーブンが2つありました。デニッシュを焼いたり、フレスケスタイなどを作ったりするのに使用するそうです。

次に発見したことは、旬のものを中心に食べることです。主食はジャガイモと聞いていたので毎日出てくると思っていたのですが、一度しか出てきません



でした。疑問に思ったので聞いてみると、今はまだ旬ではないから、と言っていました。今の時季の主食といえるものはデニッシュだそうです。日本ではほぼ毎日お米を食べるので不思議でした。

次に発見したのは、学校の昼食はお弁当ということです。弁当は、サンドイッチをつくったりフルーツを持ってきたりと、とてもシンプルです。

(左のリンゴが日本とだいたい同じおおきさ。中央と右が食べたリンゴ。)

ニンジンを生で食べているのには驚きました。私も食べてみたのですが、日本のニンジンと違い、甘くておいしかったです。フルーツは切らずに1個まるかじりです。リンゴを持って行ったのですが、小さくて皮は固く、食べづらかったです。

次に発見したことは、肉料理が多いことです。デンマークは酪農も漁業も盛んですが、魚は酢漬けにしたりと、メインとしては使用していませんでした。肉料理はよく出てきて、鶏、豚が多いのですが、お祝いごとのときは鹿の肉を食べることもあるそうです。しかし、今は日本の寿司が流行っていて、たくさんのお寿司店さんがあるそうです。

次に発見したことは、香辛料や着色料をたくさん使うことです。家には塩、胡椒、砂糖などの一般的な調味料のほか、カレー粉、バジル、シナモンなどの香辛料が常備されていて、色々な料理の中に入っていました。

また、お店には緑、黄色、青などのカラフルなジュースやお菓子が売っていました。日本ならあまり売っていないような色でおどろきました。



デンマークと日本は全くちがう食文化だと思いました。ライ麦でできているデニッシュは日本の小麦でできているパンとちがいとても固いのです。日本は毎日

学校で給食が出ますし、肉料理も魚料理もバランス良く食べています。食に関しては日本のほうがいいところがたくさんあると思います。

しかし私は旬のものを中心に食べているところは、デンマークのいいところだと感じました。日本は夏でも冬でも店に並んでいる食品はほとんど変わりません、これは加工したり、品種改良したりしているということです。

当然そのようなものでなく、自然なままつくったものを食べるほうが体にも環境にも良いはずです。ですから私はデンマークの皆さんのように、日本も旬のものを中心としたバランスの良い食生活をすべきであることを学びました。

デンマークの食文化を調べます。 登別中学校 米谷侑樹

デンマークは、1870年前後から、アメリカ・オーストラリア・カナダ等の諸国がヨーロッパの穀物市場に参入したのをきっかけに穀物価格が下落しました。それにより官民一体となって、それまでの、穀物生産主体から酪農製品主体へと転換され、世界初の共同組合の設立もあったそうです。

そのため現在は穀物でも自給率100%、食料品全体の自給率は300%になっています。畜産品だけを見ても豚肉490%、牛肉115%、鶏肉214%と極めて高い自給率となっています。そのなかで豚肉の80%は輸出されているそうです。ちなみに、日本で食糧自給率100%を超える都道府県は北海道と青森県、岩手県、秋田県、山形県のみです。



デンマークのパンはデニッシュというバターを練りこんだものが多く、(デニッシュ=デンマーク風という意味。)日本では一般的にパンの事を指すが、イギリスでデニッシュというとベーコンの意味だそうです。そしてデンマーク人はデニッシュを「ヴィエナブロー(ウィーン風パン)」と呼びます。

デンマークの事を調べるまで何気なく食べていましたが、僕たちの生活のなかでも、デニッシュパンは身近にあります。

現在、デンマークの食文化は、変化を遂げていて、輸入品や新しい技術により、スーパーでは一年中旬以外の食材が手に入るなど、食品に関する季節の違いはほとんどなくなってしまったにもかかわらず、デンマークでは、地域で栽培された旬の、それも有機栽培の食材を使った料理が流行しているそうです。

この事から僕は、食文化(食べ物の食べ方など)の違いや、日本との共通点をホームステイ先のホストファミリーに聞いたり、実際に見てみたりしてその結果を通してデンマークの食文化と日本の食文化を比較したいと思います。

デンマークの食文化を調べて 登別中学校 米谷侑樹

デンマークは、日本と同じく、朝、昼、晩に三つの食事です。そのうちの朝食と夕食は通常、家庭で食事をするそうです。この点に関しては、日本と同じです。昼食はというと、自宅から離れて食べます。ですが、多くのデンマーク人は自宅から食事をするをはるかに好みます。



朝食はほとんどの大人がパンやコーヒを好んで食べます。子供や若者はしばしば乳製品や穀物、例えばコーンフレーク、ミューズリーやオートミールを食べます。これは日本とは大きく違う食文化と言えます。昼食はほとんどパンを食べ、その上にベーコンやハム、野菜をのせます。日本で言うサンドイッチのようなものです。(デンマークでは、オープンサンドにすることもある。)夕食は前菜、メインディッシュに肉(主に豚肉)または魚のほかに、ポテトやスープを食べます。(デンマークではポテトが主食)また、ピザやパスタを食べることも珍しくなく、そのほかにも 1990 年代にはアジア料理が流行しました。



デンマークと日本の食文化の大きな違いは、デンマークではより多くの旬の食材を使った料理を食べる。と言うことです。それに比べて日本は季節に関係なく食材が手に入るので、旬に対する意識が低いのかもかもしれません。(デンマークでも旬以外の食材が手に入らない事もない。)

そのほかにもデンマークと日本の食文化の違いはたくさんあります。例えば米が主食か、パン(ポテト)が主食か、という違いや、お皿を持つか持たないか、という違いがあります。

反対にデンマークと日本の食文化の共通点もあります。例えば「ごちそうさま。」(デンマーク語で、タック・フォ・メル)と言う文化はデンマークにもあります。しかし日本のように「いただきます。」と言う文化はありません。

デンマークの消費税について調べます。 緑陽中学校 藤 島 葵

デンマークでは生活の不自由がほとんどなく、教育機関、医療機関などへの支出が少なく、年金もただで貰え、社会保障も充実しているようです。いいことづくしのようにみえますが、そのほとんどが税率25%という世界屈指の高さを誇る消費税により支えられています。つまり、国民はしっかりとその分を払っているということです。

ではなぜ、そのような高い税金が国民に認められてきたのか。それは、国民がデンマーク政府に対する信頼度が高いことが挙げられます。政府が税金の使い道を細部まではっきり国民に知らせているのが、その一つの要因のようです。さらに議会選挙の投票率70%近くと日本の40%とは比べ物にならないその高さも関係あるようです。



では、世界の消費税率はどのくらいなのか。ちなみに世界の先進国では、ほとんどが、生活必需品とそうでない物に分けて税率を設定しています。ここでは普通の消費税と食料品の税率を例にします。2004年のデータによると、日本はもちろんのこと両方5%、オーストラリア消費税10%、食料品0%、イギリス消費税17.5%、食料品0%、イタリア消費税20%、食料品10%、



北欧の国々はデンマークをはじめ、ほとんどが消費税25%近くです。ただし、デンマークだけが食料品25%、それ以外は12%台となっています。ちなみにアメリカは、州ごとに税率が違います。つまり日本は世界と比べるとずば抜けて消費税率が低いということです。

日本の議会選挙の投票率40%、消費税率5%。なぜここまで低いのか。私は日本の人たちは政治に対して関心が低く、信頼度も少ない人が多いと思いました。

このことから、デンマークの国民は、政治に関心があり、政府は国民への情報の公開がとても開放的であることがわかりました。

私は、デンマークの人たちは税金の25%についてどう考えているのか、またどれだけ生活が助かっているのか、そして、政治にどれだけ関心を持ち信頼しているのかホームステイを通して調べていきたいと思っています。



前回、制作した研修テーマ「デンマークの消費税について」、私はそのテーマに沿って、研修をしてきました。事前に調べた通り、デンマークの店は、日本より少し高い値段でものが売られていました。特に、レゴランドへ行ったときはレゴを買うときなど、小さなレゴのセットで日本では

500円前後のものが、日本円で約1000円と、とても高いことを実感することができました。デンマークの日本大使館に行った時では、そのことについて教えていただきました。

車の消費税は、200%で、150万円の車は、450万円になると聞きました。デンマークは低地が多いことで、温暖化による海水面の上昇で、国土の水没が問題になっているそうです。なので、二酸化炭素を排出する車はあまり使って欲しくないのを国が率先して進め、環境意識がとても高いことを知りました。道路には、自転車の通りやすい専用の道がたくさんありました。

ホームステイ中に、ホストファミリーから聞いた話では、消費税は自分たちでも高いと思っているようでしたが、日本の消費税は低いと思うようでした。しかしその分のリターンも大きく、学校や病院、医療関係のものも全て無料ということで毎日の生活がとても助かっているそうです。政府に対してとても信頼しているようでした。

デンマークの政府は環境や国民に気を使っており、この高い税金はほとんどこのことに使われているようです。そして、また、税金には種類ごとに分けられていることもわかりました。このような経験をもとに自分の将来に活用したいと思いません。このような貴重な学習をさせていただき、本当に有難うございました。



デンマークの農業を調べます。

登別明日中等教育学校 山下 梨里花

デンマークは農業先進国、酪農王国として知られていますが、その名を得るには国ぐるみの努力があったのです。

デンマークは19世紀後半にプロシアとの戦争に敗れ、ユトランド半島南部の肥沃な土地を失ってしまいました。ユトランド半島南部は国土の多くが地味の悪い氷食地であるデンマークにとって、虎の子の土地であったのです。このことによりデンマークは生命線を絶たれました。

そこで酪農を発達させるべく国ぐるみの努力を始めました。酪農を発達させるには、乳牛の飼料を栽培しなければなりません。デンマークは暖流の影響で緯度が高い割には暖かく、農業に適した気候でした。そのため、飼料作物は地味が悪い土地でも栽培が可能でした。

主要な耕作物は麦、トウモロコシの穀物と豆類、菜種などです。



これらの耕作物を飼料とし、肉畜も盛んです。世界大戦中、農業国としてドイツに大事にされていました。

2006年の農業物の販売額の割合は、耕種作物が34%、肉畜40%、生乳18%、その他8%となっています。こうした農産物とその加工品の約3分の2が海外に輸出されています。

デンマークと日本の農業

を比べてみると日本は、輸入飼料や人件費、設備償却費等の生産コストが高いです。一方、デンマークでは飼料のほとんどを国内で自給するとともに、大規模化が進んだことにより、低コストでまかなえています。

以上のことから、国の危機から脱け出し、努力した結果が世界に認められる農業先進国、酪農王国となったのだと分かりました。

日本がデンマークの農業、酪農をお手本としてきて、90年近くたちました。技術面だけでなく、学ぶことはまだまだ多いと感じます。

そのため、デンマークでは酪農について調べたいと思います。具体的には、ホスト・ファミリーと買い物など行った時に乳製品に目を通し、どのくらいの種類があるのか、登別には登別牛乳があるが、デンマークの町にもオリジナル製



品があるのかなど、比較してみたいと思います。

このことにより、酪農王国と呼ばれるデンマークの人の酪農への関心の高さなどを知ることができると考えています。

デンマークの農業を調べて

登別明日中等教育学校 山下 梨里花

私の研修は飛行機の中から始まりました。

機内食の時に、バターやチーズ、牛乳に「Arla」の文字を見つけました。乳製品に記されていたので、乳製品の会社の名前かなと思いました。次に発見したのは、ホテルでの朝食のヨーグルト。機内食やホテルで使われているってことは、有名なのかなと考えました。



ホストの家で、食事をしたときにもバター、牛乳が「Arla」でした。

「Arla」とはどんな会社なのか聞いてみたところ、世界的な酪農会社、協同組合だそうです。世界 100 カ国以上で有名なブランドだそうです。その中心は、なんとデンマークです。およそ 120 年前に酪農の発達とともに、「Arla」ができたそうです。最初は小さな会社でしたが、今では世界の酪農の中心にいます。

実際にその生産牧場へホストファミリーが連れて行ってくれました。デンマークの酪農は、大規模で飼料もほぼ国内のものだそうです。そして酪農先進国を一番感じたのは、やはり機械化が進んでいることです。搾乳マシーンなどがたくさんありました。



日本との交流としては、1940 年ごろからデンマークの酪農技術を日本へ伝えるため、技術者を派遣しているそうです。実際には見ることはできませんでしたが、ホストに聞くと 10 種類ほどの牛乳がお店に置いてあるそうです。また酪農をしている家では、自家製でチーズをつくったりヨーグルトを作ったりしているそうです。酪農王国という名にデンマークの人たちは、誇りを持っているのだなと調べてみて感じました。

登別には、オリジナルブランドの「登別牛乳」があると話すとそれはすばらしいことだと言ってくれました。大切なのは一人ひとりがその地の産業に、その町に誇りを持つことだと思いました。

感想文

デンマークでの日々 幌別中学校 林 可 歩

「きらきら輝いている！」

コペンハーゲンの町並みを一目見た時そう思いました。こんな国で一週間も過ごすことが出来るなんて…。私の心はすでに躍っていました。

この研修を通して学んだことは、世界は本当に広いこと、でも『人の心』は言葉や文化が違って、全く変わらず通じ合えるものであるということです。

見るもの全てが新鮮で、新たな発見の連続となる感動的な日々を送ることが出来たのも、現地で私を迎えてくれたたくさんの人達の優しい心づかいがあったからです。不安がいっぱいで戸惑ってばかりの私に、みんなはいつも笑顔で接してくれて、私に大きな安心感を与えてくれました。自国を離れてやってきた私が、いかに心細い思いでいるかをすっかり分かってきていることが手に取るように伝わり、本当にうれしかったです。

私のホストファミリーはみんなすごく積極的で、私があげたお土産にもとても興味をもって、すぐに飾ったり遊んだりしていました。また、いつも一緒にいてくれ、私が困らないように話しかけてくれました。私に来ることをすごく楽しみにしていて、心から受け入れてくれていることをすごく感じました。



デンマークでの会話手段は英語しかありません。私は英語での会話をとて楽しみにしていましたが、デンマークのみんなは私が思っていた以上に英語が上手で、正直なところとても焦ってしまい、会話が分からなくておいて行かれたらどうしようという不安が募ってしまいました。

しかし、最初は単語を並べるのが精一杯だったものの、だんだん相手の質問に答えられるようになり、こちらから質問をすることも出来るようになりました。そして、そこから次々と会話が広がって行き、いつの間にか英語で話すことがとても楽しく感じるようになっていました。



おそらくたくさんの間違いがあったりおかしな表現があったかもしれませんが、そんなことは気にせず、身振り手振り笑顔でコミュニケーションをとることによって、英語との距離感がどんどん縮まったように思います。

いっしょに行ったメンバーと顔を合わせた時も無意識に英語が飛び出してく

るほどでした。これは自分でも驚きでした。

この研修を通して他の団員との仲もすごく良くなったと思います。20歳になったらまたこのメンバーでデンマークに行こうと誓い合い、ホストファミリーとも「必ずまた会おう。」と約束をしました。本当に何度も行きたいと思わせる国でした。

この機会を与えてくださった多くの皆さんに心から感謝しています。
ありがとうございました。

デンマークのホームステイの思い出

西陵中学校 水谷太亮

デンマークで僕は、マグナス・バンク・ヨハンセン君という同い年の子の家にホームステイしました。マグナスは初めて会った時、人見知りをするらしく、ずっと無口でしたが、一緒に卓球をしたり、ゲームをしたりしている内に少しずつ仲良くなり、たくさん僕に話しかけてくれました。



最初は、早口な英語で話し、僕が聞き取れないとわかると、ゆっくりと解りやすい単語に置き換えて、話してくれました。僕の英語は、ほとんど「Yes」と「No」と簡単な英語を使いましたが、意外と気持ちが伝わり、行きたい場所に連れて行ってもらったり、マグナスとたくさん遊ぶことができました。マグナスとその仲間達は、バスに乗るとシートベルトをはずしあったり、いたずらをしたり、とても面白い人たちでした。

マグナスの家はとても広い畑を持っていて、ジャガイモや、小麦がたくさん植えてありました。家の庭はとても広く、サッカーボールもあったので、マグナスにサッカーを教えてあげました。庭にはりんごや梨などのフルーツがなっていて、とてもおいしかったです。朝は、パンにチーズやジャムを塗って食べ、お昼ごはんは、パンに肉やハムをはさんだものと人参を生で二本持たせてくれました。夜ごはんは、豚肉と、野菜、ごはん、パン、じゃがいもなどができました。朝ご飯は、お母さんやお姉ちゃんが作り、夜ごはんはお父さんが作っていました。僕の家では、朝ごはんも夜ごはんもお母さんが作っているの、びっくりしました。デン

マークに行く前は、外国のご飯は、きっと口に合わないだろうと思っていましたが、本当に何を食べてもおいしく感じました。

時々、友達の家に行き、火をたいて、パンやマッシュマロを焼いて、みんなで食べて、夜の九時くらいに帰りました。みんなで集まる時は、サッカーをすることができてとても楽しかったです。



ホストファミリーに僕の研修テーマのことを絵や英語で伝えると、風車がある場所に連れて行ってくれたり、パソコンを使って風車のことを調べてくれて、とてもいい勉強になりました。

僕が、デンマークで少し困った事は、英語が少ししか話せなくて自分の思っていることを伝えるのに時間がかかったことと、お風呂は、シャワーだけで、トイレのすぐ横にあったので濡らさないように気を使わなければいけなかったこと

るです。

でもデンマークのホストファミリーや学校の友達は、とても優しく、暖かい人ばかりで、毎日がとても楽しく感じました。

日本に帰ってからもメールやインターネットを通して交流しています。国や言葉などが違っていても交流し、友情を深めていけるという事を今回の研修で学ぶことができました。

最後に、このような機会を与えてくださった全ての皆様に感謝したいと思います。ありがとうございました。

デンマークでの1週間は、私にとって忘れることのできない思い出となりました。私はもともと海外、特にヨーロッパに興味がありました。中学に入学し、先輩があこがれのヨーロッパのデンマークに行ったことを知り、「私も行きたい!」と思いました。代表に選ばれた時はうれしくて飛び跳ねました。不安や緊張もあったけど、仲間たちが優しくかったので楽しみな気持ちのほうが大きく感じていました。

デンマークに着いた時は正直眠かったです。しかし、周りが外国人ばかりで驚いて眠気がふっとびました。「いま日本じゃないんだ」と少し夢のようでした。

しかし駅にセブンイレブンがあったときは日本が身近に感じられてなんだかうれしかったです。残念な思い出はチボリ公園です。たくさん魅力的なアトラクションがあったのに、どれに乗ろうか迷っているうちに雨が降ってきてしまってアトラクションに乗れませんでした。楽しみにしていたのにとっても残念でした…。

楽しかった思い出はレゴランドです。小さなレゴでできていると思えないほど、街や動物が似ていて驚きました。また、たくさんのアトラクションに乗ることができ、チボリ公園で乗ることができなかった乗り物にも乗れたので、とっても楽しかったです。あと、私の先生がレゴ好きなのでお土産を買いました。喜んでくれたのでよかったです。



嬉しかった思い出はプレゼントを貰ったことです。2日目の夜、私のホストであるアマリエが私の似顔絵としおりとプレスレットをくれました。プレゼントを貰えるなんて思っていなかったのですごくうれしかったです。特にプレスレットは手作りで、アマリエとおそろいでした。ただ、少し壊れやすいので今は大切に飾っています。

1番印象に残っている思い出は、船に乗ったことです。船の上から見た風景は、テレビでしか見たことのないような街並みで驚きました。今まであこがれていた景色が生で見られたのはうれしかったです。



今回の海外派遣で日本ではできない貴重な体験をたくさんすることができました。ありがとうございました。大人になったらもう1度いきたいものです。

僕は、8月15日(月)から8月21日(日)までデンマークに行ってきました。最初、僕はデンマークに行こうとも思いませんでした。なぜ僕がデンマークに行ったのかというと、「デンマークに行かないか?」という問いに勢いで「行きます。」と言ってしまったからです。最初は後悔しましたが、結果的にとても良い経験になったので、今は、心からよかったと思っています。

一日目は、成田国際空港から11時間かけてデンマークのコペンハーゲン空港に行きました。その後チボリ公園に行き、コインゲームなどをしました。ホテルで眠れたのは、日本時間で言う朝の6時頃なので、この日は24時間以上起きていたこととなります。

二日目は、道子・ペダスンさんという人の案内で在デンマーク大使館へ行き、佐野利男大使と面談し、そこで自分たちのテーマに沿った話が聞けました。その後オーデンセ市内を散策しました。オーデンセ市内には自転車専用道路がほぼ全ての道にあり、多くの人達が自転車に乗っていました。また、デンマークの信号は赤と青切り替わりがとても早いので、道路の中に閉じ込められる事もあります。その後アンデルセン博物館に行き、アンデルセンのことを学びました。道子・ペダスンさんと別れたあとリングという町へ行き、ホストファミリーと過ごしました。戸惑っていた僕に優しく声をかけてくれ、もてなしてくれました。

三日目は、ホストファミリーの子が通うリングフリー校に通う途中とてつもなく大きなナメクジを見てびっくりし、「大きい。」とつぶやいてみると、「これでも小さいよ。」と言われ二度もびっくりさせられました。その後リングフリー校で交流・校内見学し、イーエスコウ城へ行きました。イーエスコウ城とはマリパークのモデルになった城です。その後、ほかのホストファミリーの家の庭で焼きマッシュマロパーティーをしたり、サッカーをしたり、トランポリンで遊んだりしました。デンマークは9時まで明るいので、平気で時間たつのを忘れて遊んでしまいました。



イーエスコウ城

四日目は、ノーアエア校で校内見学をした後、再びリングフリー校で交流をして図書館と老人ホームへ行き、リングフリー校で開かれたさよならパーティ

に出席し、夕食を食べました。ひさしぶりのお米だったのでおいしかったです。その後、日本で練習してきた歌と踊りを披露しました。とても盛り上がったので楽しかったです。この日は明るく、夜の10時まで学校の遊具で遊ぶことができました。

レゴランド



五日目は、リングフリー校からレゴランドへ行き、ジェットコースターに乗り、ウォータースライダー的な乗り物にも乗りました。途中、ホストファミリーの子がアイスクリームを買ってくれると言ったのでたのんでみると、これもまたとてつもなく大きなアイスクリームが出てきました。さらに一つでいいと言ったのになぜ

か二つになっていました。レゴランドから帰ってくると、自分のテーマだったデンマークの食文化を日本語で調べてくれていました。このとき、ものすごくホストファミリーの優しさが伝わってきました。

六日目は、やっと馴染めてきたホストファミリーとのお別れの日でした。僕にとってはとても長く感じた五日間でしたが、楽しく、充実した五日間でした。

最後、ホストファミリーに写真を撮ってもらい、ハグをしました。ホストファミリーと別れるのはちょっぴりつらかったです。

今回の旅で人と人とのやさしさや、思いやりなどを学ぶことができ、自分にとっても成長できる旅でした。

またデンマークに行く機会があればもっとデンマークのことを勉強してから行きたいと感じました。

分からないくらい長く飛行機に乗り、デンマークに着くと、デンマーク時間 17:00、天候晴れ、日本時間 01:00。なかなか機内では眠れず、眠気らしきものを感じながら、夜は5分も経たずに寝た。

デンマークは、気温が低めと聞いていた通り、朝はとても寒かった。ホテルの朝食は日本人には口が合うものが多く、とても良かった。しかし、よくわからない見た目のものもある。

案内をしてくれる道子・ペダスンさんとファボー・ミットフン友好協会のリズイ会長と合流しデンマークの日本大使館の佐野利男大使と面談。佐野大使は最近日本に帰り、つい昨日戻ったそうで、なんとデンマーク行きの飛行機が同じ便だったそうでとても驚いた。その後、コペンハーゲン中央駅に向かうとき、ペダスンさんが急きょ、水上バス(?)で行こうと提案してくれ、とても素晴らしい街並みを見ることができた。

そして、いよいよホストファミリーと対面の時。きちんと仲良く過ごせるか、英語は伝わるのかなど心配をしていると、心の準備の間もなく、すぐホストファミリーの家へ送られ、少々パニック気味で会話をした。家族は5人でお父さんがヘンリック、お母さんがスザンネ、兄にニコライ、姉にルイス、そして同い年のカミラで、みんな気さくに話をかけてくれてホッとした。家の庭にトラランポリンがあり、初めて体験してとても楽しかった。

次の日からリングフリー校へ行く。自転車で行くということで乗るとサドルの位置が高く、形が細くなっているため、痛くなったけれどもすぐに慣れた。

翌日、イーエスコウ城へ行き、見た瞬間マリパークにあるニクス城に似ていることを実感した。敷地内には、公園のようなものがあり、木でできた小さな手押しの車でホストファミリーの人たちととても楽しく遊んだ。

その夜、さよならパーティがあり、派遣団のみんなで JOYFUL という曲のダンスを披露し、とても愉快地に過ごした。

最後の別れの時はとても悲しかったけれども、いい絆を結ぶことができました。このような誰も体験することができないような経験をさせていただき、登別の皆さんとその関係者に感謝しています。本当にありがとうございました。



ホストファミリーとの思い出

登別明日中等教育学校 山下 梨里花

「梨里花が来てくれてとてもうれしい！」ホームステイ初日、ホストファミリーに言われました。私はホームステイが不安でした。でも、この言葉で安心に変わりました。ホストファミリーはとても優しくしてくれました。私の話が上手く伝わらなかったことが何度もありました。そんなときも、理解しようと聞いてくれて伝わった時は、お互いに笑顔になりました。

私のホストのイーヴァは家でも学校でも、いつも私のことを気にかけてくれました。私もイーヴァに日本語を教えたり、折り紙と一緒に折ったりしました。

初日と2日目は、私からホストファミリーに話しかけることは、ほとんどありませんでした。ですが、ホストと過ごして3日目、一緒にお店を見たり、庭で遊んだりしました。そしてさよならパーティーでたくさん話せました。

この日はイーヴァととても仲良くなれました。そしてイーヴァの友達のカロリーネとも仲良くなれました。カロリーネは3日間ホストの家に泊まって、パーティーの料理も一つ一つ教えてくれました。



次の日はレゴランドに行きました。イーヴァやカロリーネと話したりして楽しさが倍になりました。

他のクラスメイトとも話せたし、勇気を出して話して良かったと思いました。

帰りの日は「帰りたくないなあ」と感じました。前の日の夜に手紙を書いていたので、渡すと喜んでくれました。私は

ホームステイを通してひとつ分かったことがあります。それは言葉が通じなくても、伝えようという気持ちと理解しようという気持ちがあれば、コミュニケーションは十分にとれるということです。



あとかぎ

第19回登別市中学生海外派遣に参加して

引 率（登別市立幌別中学校）松本 政樹

この度、第19回登別市中学生海外派遣団の一員として参加させて頂きましたことにお礼申し上げます。また派遣に際し様々のご協力をしていただいた、小笠原春一登別市長様や、高田正紀副市長様、武田博教育長様には心より深く感謝申し上げます。さらに事前研修より具体的なご指導を頂きました登別市企画グループ国際交流担当の東ひろみ企画主幹、鈴木利枝参与兼専門員はじめ関係者の皆様に改めてお礼申し上げます。

派遣団一行は皆様のご協力とご指導のお陰で、現地の人たちとの交流を深め、多くのことを学び、元気に帰ってくることができました。

本年度はそれぞれの研修テーマに基づき、事前学習を深め、現地で実際にホストファミリーや学校などの協力を得ながら調査をし、その調査を基に研修テーマのまとめを行いました。

現地で日本大使館を訪れた際に、それぞれの研修テーマについてのヒントや考え方を教えていただき、さらに詳しくテーマについて学ぶ機会となったのも、とても有意義な訪問になりました。

派遣に伴って、初めて会う生徒たち同士で不安と緊張もありましたが、2週間に渡る事前研修の中で、まずは派遣団の中で交流を深め、共に研修を重ねることで、団結していくことができました。

また、日常会話程度の語学研修を行いました。その中で市のALT、ニコール・ロバートソンさんやALT補助支援員の長谷部竜也さん、鴫麻衣子さんの協力の下、実際場面に即した英会話の練習に取り組み、実際に想定できる場面を設定し、ロールプレーを用いて、話し方やジェスチャーを学び、それが現地のホストファミリーや交流学級の生徒とのコミュニケーションに役立ちました。快く英会話指導をして頂いた3名には、心から感謝申し上げます。

今回の派遣に伴い、今後生徒にはデンマークで研修し、学習したことを学校生活や自分の人生に活かしてほしいと願っています。

また、一緒に研修を積んだ仲間や現地で知り合った友人やホストファミリーとのつながりを大切に、今後の人生の財産にすることで、登別市の更なる国際交流の礎となることを期待しています。



あ と が き

団 長（登別市立緑陽中学校）石 垣 則 昭

10回の事前研修を経ての旅は、あっという間でした。参加した生徒にとっても、生涯忘れることのない貴重な体験であるとともに、自らの生き方に大きな影響を与える研修旅行であったと感じています。

生徒も見知らぬ方々の前であるものの、日増しに堂々と振る舞うことができるようになりました。

また、今回の研修旅行では引率教員の松本政樹先生の存在が極めて大きく、様々な場面で細やかな心配りをしていただきました。

旅行には、予定外がつきものです。しかしその予定外が感動を呼ぶものです。二日目コペンハーゲンで晴天に恵まれたため、日本大使館に同行してく



れたファボー・ミッドフュン市の友好協会会長である Lizzi さんより、近くの棧橋より船に乗り運河巡りと運河に隣接する歴史的建造物を見学しないかとの申し出がありました。折角の機会と考え、乗船するとうっとりするほどの景観に何十枚もカメラのシャッターを切ったほどです。下船後も、中心街にお連れいただき詳しくその意義深い歴史を説明頂きました。

ともに感じたことは、派遣された私たちのためにどなたでも、どこのどの地域でも、どのホストファミリーでも、それはもう、温かく接して頂いたことです。言わば、文化や歴史さらに言葉を越えたところにある人と人の心のふれあいがあったように強く感じています。

そんな素晴らしい旅であったこととお話しあしがきとします。

資料編

登別市中学生海外派遣事業の概要

事業概要

目的：次代を担う青少年が、諸外国の生活習慣や文化に触れることを通して、異文化への理解を深め、国際社会に対応できる豊かな人間性を身につける。

訪問国及び都市：デンマーク王国 コペンハーゲン
ファボー・ミッドフュン
オーデンセ

派遣期間：平成 23 年 8 月 15 日（月）～21 日（日）6泊7日

交流内容：表敬訪問 = 在デンマーク日本国大使館・ファボー・ミッドフュン市役所
学校訪問 = リンゲフリースクール・ノーアエアスクール
施設見学 = 図書館・老人福祉施設（リンゲ）
イーエスコウ城（ウイスリンゲ）
アンデルセン博物館（オーデンセ）
レゴランド（ビルン）

研修会等：

結 団 式 = 平成 23 年 7 月 1 日

事前研修 = 7 月 20 日～8 月 12 日 計 10 回

研修テーマ発表・デンマークの概要・英会話・デンマーク料理実習・アトラクションなど

講師・協力団体等 = 引率教諭 幌別中学校 松 本 政 樹

ALT ニコール・ロバートソン

ALT 補助支援員 長谷部 竜 也、鴫 麻衣子

派遣 OB 鈴木 雄 登（平成 19 年度 幌別中学校）

佐藤 啓 陸（平成 22 年度 西陵中学校）

松 田 綾希子（平成 22 年度 北海道登別明日中等教育学校）

勝 洋 一（平成 22 年度 鷺別中学校長）

堂 坂 桃（平成 22 年度 緑陽中学校教諭）

登別デンマーク協会

事後研修 = 9 月 12 日

研修成果まとめ、紀行文・感想文提出、反省会

派遣生徒・引率者名簿

| | |
|-----------------|---------|
| 幌別中学校 2 年生 | 林 可 步 |
| 西陵中学校 2 年生 | 水 谷 太 亮 |
| 鷺別中学校 2 年生 | 竹 原 香 澄 |
| 登別中学校 2 年生 | 米 谷 侑 樹 |
| 緑陽中学校 2 年生 | 藤 島 葵 |
| 登別明日中等教育学校 2 年生 | 山 下 梨里花 |

| | | |
|------|-----------|---------|
| 団長 | 緑陽中学校長 | 石 垣 則 昭 |
| 引率教諭 | 幌別中学校英語教諭 | 松 本 政 樹 |

研修日程表

| 月 日 | 内 容 | | 場 所 | 時間 |
|----------|---------------|---|--------|-------------|
| 7月1日(金) | 結団式・第1回保護者説明会 | | 小会議室 | 18:00~19:00 |
| 7月20日(水) | 事前研修1 | ・役割分担 ・アトラクションについて ・デンマークで学びたいこと発表 ・デンマークの概要 | 大会議室 | 16:30~18:00 |
| 7月24日(日) | 事前研修2 | OBとの懇談 | 視聴覚室 | 10:30~12:00 |
| 7月25日(月) | 事前研修3 | 英会話・手紙の書き方 | 視聴覚室 | 13:30~15:30 |
| 7月27日(水) | 事前研修4 | 英会話・アトラクション練習 | 大会議室 | 9:30~12:00 |
| 7月29日(金) | 事前研修5 | 英会話・アトラクション練習 (ALT協力) | 視聴覚室 | 9:30~12:00 |
| 8月1日(月) | 事前研修6 | 英会話・アトラクション練習 (ALT協力) | 視聴覚室 | 9:30~12:00 |
| 8月3日(水) | 事前研修7 | 英会話・アトラクション練習 | 視聴覚室 | 9:30~12:00 |
| 8月5日(金) | 事前研修8 | 英会話・アトラクション練習 (ALT協力) | 視聴覚室 | 9:30~12:00 |
| 8月8日(月) | 事前研修9 | 最終打ち合わせ&総練習 | 視聴覚室 | 9:30~12:00 |
| 8月10日(水) | 事前研修10 | デンマーク料理教室 (登別デンマーク協会協力) | 調理室 | 9:30~12:30 |
| 8月12日(金) | 出発挨拶 | | 市長室 | 10:00~10:30 |
| | 第2回保護者説明会 | | 第2委員会室 | 18:00~19:00 |
| 8月15日(月) | デンマークへ出発 | | | |
| 8月21日(日) | デンマークより帰国 | | | |
| 8月24日(水) | 帰国挨拶 | | 市長室 | 16:30~17:00 |
| 9月12日(月) | 事後研修1 | 報告書作成 | 視聴覚室 | 16:30~18:00 |

ホストファミリー名簿

| | 派遣者名 | ホスト名・住所・メールアドレス | 性別等 | 家族構成 |
|---|------------------------|--|-----------|---|
| 1 | 林 可 歩 | Louise Langæble Petersen ルイス・L・ピータセン Nordmarken 4, 5750 Ringe, Denmark e-mail:louisepetersen@hotmail.com | 女 13 歳 | 父：ニルス・ヨーン 母：エルセ 姉：トリーネ(17 歳) |
| 2 | 水 谷 太 亮 | Magnus Banke Johansen マグナス・B・ヨハンセン Bregnedalsvej 6, 5750 Ringe, Denmark e-mail:magn98@gmail.com | 男 13 歳 | 父：イエンス 母：ドルテ 姉：ソフィ(17 歳) |
| 3 | 竹 原 香 澄 | Amalie Fiilsø Jensen アマリエ・F・イエンセン Platan Alle 46, 5750 Ringe, Denmark e-mail:jens-martin@mail.dk | 女 13 歳 | 父：イエンス 母：ソス 姉：マリア(30 歳) 兄：マーティン(25 歳) |
| 4 | 米 谷 侑 樹 | Anders Skalshøj Andreasen アナス・S・アンドレアセン Rikkesmindevej 5, 5750 Ringe, Denmark | 男 | 父：パー 母：ローネ 姉：マリアンヌ(15 歳) 妹：マーヤ(9 歳) 弟：クリスティアン(7 歳) |
| 5 | 藤 島 葵 | Camilla Liborius Birkholm カミラ・L・バークホルム Dalager 73, 5750 Ringe, Denmark e-mail:birkholm@midtfyn.net | 女 13 歳 | 父：ヘンリック 母：スザンネ 兄：ニコライ(17 歳) 姉：ルイス(14 歳) |
| 6 | 山 下 梨 里 花 | Eva Holst Pallesen イーヴァ・H・パレセン Boltinggårdvej 5A, 5750 Ringe, Denmark e-mail:evapallesen@yahoo.dk | 女 12 歳 | 父：ヨーン 母：ベリット 姉：モナ(16 歳) 姉：マーヤ(18 歳) |
| 7 | 石 垣 則 昭 (団 長) | Anne Helstrup アネ・ヘルストラップ (リングエ・フリー校教師) Sdr. Højrupvejen 46, Pederstrup, 5750 Ringe, Denmark e-mail:annehelstrup@hotmail.com | 女 | 夫：トーベン 娘：ミーア(19 歳) 娘：ユリエ(17 歳) 息子：シモン(15 歳) 息子：イエツペ(13 歳) 息子：マグネ(12 歳) 息子：氏名不明(1 歳) |
| 8 | 松 本 政 樹 (英 語 教 師) | Jonathan Tanderup Gryndahl ジョナサン・T・グリンダール Vestergade 7, 5750 Ringe, Denmark | 男 | 父：ジョン 母：カトリーヌ 妹：アウグスタ(10 歳) |

派遣日程表

| 月日 | 行程 | 内容 | 食事 | 宿泊 |
|----------------------------|--|---|-----|-----|
| 8/15 (月) | 市役所 千歳空港 5:30 6:40 | 【1日目】 5:15 市役所裏玄関に集合 5:30 市バスで新千歳空港へ 6:40 新千歳空港到着後、搭乗手続き 7:45 NH(全日空 2152 便)で成田国際空港へ 9:15 成田国際空港着後、出国手続き 11:35 SK(スカンジナビア航空 984 便)でコペンハーゲンへ、空港から駅へ徒歩移動 17:44 列車 RE 1083 コペンハーゲン中央駅へ 17:57 コペンハーゲン中央駅到着 18:10 ホテルチェックイン ホテル名: ベストウェスタン リッチモンドホテルコペンハーゲン中央駅から約 800m 徒歩 10 分位 トリプル 2 部屋・ツイン 1 部屋 | 機内 | ホテル |
| | 千歳空港 成田空港 7:45 9:15 | | | |
| | 成田空港 (日付変更線) コペンハーゲン空港 11:35 16:05 (現地時間) | | | |
| | コペンハーゲン空港駅 コペンハーゲン中央駅 17:44 17:57 | | | |
| | コペンハーゲン中央駅 ホテル 徒歩移動 18:00 18:10 | | 団 | |
| 8/16 (火) | ホテル 在デンマーク日本大使館 9:00 9:30 | 【2日目】 8:00 ホテルにて朝食。ホテルに道子・ベダスンさんが 8:45 到着 9:00 在デンマーク大使館へ。荷物はホテルに置いたまま。道子さんと大使館へ。リズイ会長も大使館へ同行。9:30~11:00 在デンマーク大使館へ、佐野利男大使面談。ホテルに戻って荷物を持ってコペンハーゲン中央駅へ昼食(駅構内の売店で購入等) 12:30 列車(IC 845)に乗車 14:01 オーデンセ駅着、ユースホステルに荷物を預ける。市内散策 14:30~15:30 アンデルセン博物館見学(生徒は無料、大人 1 名分のみ支払) 道子・ベダスンさんとオーデンセ駅で別れる 16:31 オーデンセ駅で乗車(列車 RE4654) 16:47 リング駅着 ホスト宅へ | ホテル | ホスト |
| | 在デンマーク日本大使館 ホテル 11:00 11:30 | | 団 | |
| | コペンハーゲン中央駅 12:00 | | | |
| | コペンハーゲン中央駅 12:30 オーデンセ駅 | | ホスト | |
| | オーデンセ市内 | | | |
| オーデンセ駅 リング駅 16:31 16:47 | | | | |
| 8/17 (水) | | 【3日目】 リングフリー校で交流 9:00~12:00 始業式・礼拝・校内見学・7 年生(担任: アネ・ヘルストラップ)にて過ごす 13:00~ イーエスコウ城見学、ホストと過ごす 【4日目】 8:15 ノーアエア校(7 年生)で交流・朝会(歌と踊り披露)校内見学、授業を受ける(担任: コーアリネビアー) 10:15 リングフリー校で交流(生徒・引率者)授業を受ける。(引率者)ファボー・ミッドフュン市役所訪問(市長: ハンス・ヨーンソン、フィン・ヨハンセン)午後(全員)図書館見学、老人ホームを訪問し、歌と踊り披露。夕方 リングフリー校で開催されるさよならパーティー(協会会長: リズイ・サンダー)に出席 【5日目】 リングフリー校からレゴランドへ 8:05 リングフリー校集合・礼拝・歌と踊りを披露。9:00 7 年生と共にレゴランドのあるビルンへバスにて移動 11:00~15:00 レゴランド見学 15:00 レゴランド出発 17:00 リング到着、その後ホストと過ごす | ホスト | |
| 8/18 (木) | リング市内 | | | ホスト |
| 8/19 (金) | | | | |
| 8/20 (土) | ホスト宅 リング駅 | 【6日目】 それぞれホストファミリー宅からリング駅に向かう 8:30 リング駅到着 8:47 ホストファミリーやお世話になった方々に別れを告げ、オーデンセ駅(列車 2823)へ 9:45 列車(IC 116)を乗り換え、コペンハーゲン空港駅へ 11:37 コペンハーゲン(カストラップ)空港駅到着。駅から空港まで、徒歩移動。出国手続きを済ませ、昼食 15:45 同空港から成田国際空港へ(日付変更線) | ホスト | 機内泊 |
| | リング駅 オーデンセ駅 8:47 9:02 | | 団 | |
| | オーデンセ駅 コペンハーゲン空港駅 9:45 11:37 | | 機内 | |
| | コペンハーゲン空港 15:45 (日付変更線) | | | |
| 8/21 (日) | 成田国際空港 9:35 | 【7日目】 9:35 SK(スカンジナビア航空 983 便)で成田国際空港到着、入国手続きを済ませ朝食 11:00 成田国際空港から羽田空港までリムジンバスで移動 14:00 NH(ANA67 便)で羽田空港から新千歳空港へ到着後、市バスに乗車 17:10 市役所到着 | 団 | |
| | 成田国際空港 羽田空港 11:00 12:10 | | | |
| | 羽田空港 新千歳空港 14:00 15:30 | | | |
| | 新千歳空港 市役所 16:00 17:10 | | | |

友好都市協定書

デンマーク王国リングゲ市及びウイスリングゲ市と日本国北海道登別市は、1997年に「友好の絆」を交わして以来、リングゲ・ウイスリングゲ・登別友好協会と登別デンマーク協会との両協会の活動を積極的に支援し、双方の市民の友好と相互理解を深め、友好交流を積み重ねてまいりました。

これらの交流は、両市民の文化・教育の面においても拡がりを持たせるものであります。

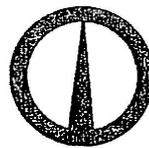
この度、リングゲ市、ウイスリングゲ市が近隣のまちと合併し、ファボー・ミッドフュン市として誕生したことを記念する年になお一層両市の絆を強め、ファボー・ミッドフュン登別友好協会（旧リングゲ・ウイスリングゲ・登別友好協会）と登別デンマーク協会の積極的な支援を継続するとともに、両市の相互理解と信頼のもとに市民交流、文化交流の推進を目指し、ここに友好都市協定を締結します。

平成19年(2007年)6月10日



ファボー・ミッドフュン市長

ボー・アナスン



登別市長

上野 晃